

田老観光ホテルの現状



陸前高田中学校跡地



道の駅跡



陸前高田

陸前高田駅木一ム跡



陸前高田地区進まぬ復興



2013震災復興祈念集会 in 宮古

2013年5月24日～2013年5月26日（3日間）

24日：バスにて宮古へ移動

結団式

25日：宮古にて「震災復興祈念集会 in 宮古」参加

被災地視察、工場見学

1.) 浄土ヶ浜（宮古）視察

2.) 田老地区

3.) 釜石地区

26日：被災地視察

1.) 陸前高田地区

解散式

今回、情報労連の「2013震災復興祈念集会 in 宮古」に参加させていただき、被災地の現状を幾つか視察したことによってたくさんのかんじました。その中で特に感じたことは、被災地には爪痕が残っていてまだまだ支援が必要であるということです。被災された地域の方は、ヒト、家、モノ、仕事、生きる目的など多くを一度失っています。それらは取り戻せるモノとそうでないモノがあります。そして2011年3月11日に起こ

った東日本大震災によって失われたものは、圧倒的に取り戻せないものが多いように思えます。私自身、出身が仙台で大震災当時はまだ仙台にいました。内陸地だったため、家族や親戚、友人も皆無事で、自宅マンションにヒビが入り、電気、水道、ガスが約 10 日間使えないといった程度の被害で済みました。しかし、今回視察した地区は海沿いの地区が多く、内陸地と比べると被害の規模が明らかに違います。大切なヒトを失っている方が多い、家をまるまる失っている方が多い、仕事を失っている方が多い、といった事実があります。そしてこれだけ多くを失うと比較的被害の少なかった被災された方とはまた異なり、生きる目的というのも失いかけています。前に進むことが出来ずにいる方が多くいます。国の支援で仮設住宅、生活物資が提供されています。しかし 2 年が過ぎた現在は、大震災も風化の様子が垣間見え、たくさん来ていたボランティアもほとんど姿が見えません。今回視察した中で特に復興が進んでいない陸前高田、田老といった地区はメンタルケア、物資支援など様々な支援が継続して必要であるように思えました。

今回の活動を通して重要だと感じたことは、震災を風化させない継続性のある支援が必要であるということです。復興に一番大切なのはやはりヒトであると思います。なので、被災された方へのメンタルケアについて

は特に継続性をもってやるべきだと思い、今後そのような機会があれば是非参加させていただきたいと思います。